

「経営情報イノベーション研究」巻頭言

経営情報イノベーション研究科長
八木 健 祥

持続可能な未来を紡ぐ

わが国における新型コロナウイルスの感染が初めて確認されてから1年半が経過した。横浜港に寄港したクルーズ船における感染発覚当時、この得体の知れないウィルスに世界中がこのように長い期間翻弄されるとは誰が想像したことだろうか。しかも、ウィルスとの戦いは現在も進行中であり、わが国に関しては当面 GDP の下押し圧力として作用する。過去の歴史を紐解いても、ペストやスペイン風邪等世界的な感染症の蔓延は世界の経済社会体制を大きく揺るがしてきた。しかしながら、その一方で、これまで世界が感染症との戦いに勝利したのちに芽生えたイノベーションが今日の経済社会体制の礎となっていることも事実である。イタリア・ルネサンス文化しかり、イギリス・産業革命しかりである。我々としては、新型コロナウイルスの感染長期化がもたらす負の側面に目を奪われることなく、「ピンチをチャンスに変える」力にも着目し、目下の難局を新たなイノベーションの興隆に繋げていかなければならない。

このように新型コロナウイルスの感染拡大・長期化がもたらす、パラダイムシフト、ニューノーマルな時代への転換を踏まえて、研究者、大学院生が一丸となって新たな知見を創出し、静岡県をはじめとする地域、国全体に積極的に発信していくことが本研究科にも求められている。今回の紀要には、博士後期課程に在籍する6名の研究者の論文3本と、研究生1名の研究ノートを収録した。いずれの論文等も現代社会が抱えている課題に対する新たなソリューションを提供することで、各分野における持続可能な未来を紡いでいくものと期待するところである。